

URL:fukushimafolklore.com

E-mail:fukushima.folklore1971@gmail.com

## 令和7年度 福島県民俗学会 大会

福島県民俗学会の令和7年度大会は、令和7年6月1日（日）の午前10時30分より、郡山市労働福祉会館の第1会議室にて約20名の参加者を集めて行われました。

《研究発表会》午前の部：10時40分～12時／午後の部：13時～14時20分

今年度は、従来、講演会やフォーラムの時間にあてていた午後の部も研究発表にあて、多くの会員の方の発表の場を設けることとなりました。今年度は、以下の皆さんの4つの研究発表が行われました。

## ①小澤弘道氏

「元禄十二年飯豊山山道絵図作成の意図」

## ②星洋和氏

「久之浜張子の近代一郷土玩具ブームとの関わりから一」

## ③中嶋奈津子氏

「早池峰神楽の伝播について」

## ④二本松文雄氏・板倉世典氏

「オシンメイサマ—南相馬を中心に—」

①小澤弘道氏「元禄十二年飯豊山山道絵図作成の意図」は、まず飯豊山と飯豊山信仰について概説した上で、福島県指定重要文化財の歴史資料である絹本著色飯豊山山道絵図（飯豊山神社所蔵）について、関連資料を博捜し、同絵図の作成の目的に迫る内容でした。小澤氏にはとくに学会当日は公私ともに多忙な中で質疑応答の時間もやむを得ず割愛せざるを得ませんでした。遠路、郡山まで足を運んで私たちにご高説をお聞かせい

ただいたことを心より感謝申し上げます。

②星洋和氏「久之浜張子の近代一郷土玩具ブームとの関わりから一」は、現在は廃絶した久之浜張子（久之浜張子木型はいわき市指定有形民俗文化財）を取り上げ、戦前の郷土玩具ブームの中で発行された出版物の記述を丹念に追ひ、そこから近代において郷土玩具が全国的に流通していく過程を明らかにされた内容でした。久之浜張子が昭和の一時期、廉価であるがゆえに遠く関西にも流通し、木戸忠太郎（1871-1959年、木戸孝允の養子、だるま収集家）などの著作の中にも京都の露店に並んでいたという久之浜張子の記述がある、といったお話は驚きでした。

③中嶋奈津子氏「早池峰神楽の伝播について」は、新入会員である中嶋氏の当会では初となるご発表でしたが、早池峰神楽については長年ご研究されてきたテーマで、専門的な内容を私たちにも分かりやすく伝えていただきました。民俗芸能研究の大家・本田安次氏（1906-2001年、本宮市出身）によって見出された早池峰系神楽の「大償神楽」について、例えば200年以上前の古文書の中に度々登場する人物の名を具に拾い、そうした担い手たちの動きから神楽の継承や伝播をひもといっていく展開は圧巻でした。

④二本松文雄氏・板倉世典氏「オシンメイサマ—南相馬を中心に—」は、同名の南相馬市博物館の映像作品（31分、平成31年発行）を、製作を担ったお二方による解説や製作の裏話を交えながら鑑賞しました。主に青森・岩手両県で言うところのオシラサマですが、福島県内の場合、オシンメイサマなどと呼ぶ男女一対の神を祀る民間



福島県民俗学会通信誌『ふおーらむ・F』 21号 2025(令和7)年12月31日発行

編集・発行:福島県民俗学会(会長 岩崎真幸)

通信誌編集担当:山口 拓

